

平成25年12月19日
学校教育課

- | | |
|--------------|---------------------------------------------------------------|
| 1 実施日 | 平成25年10月23日（水） |
| 2 実施対象 | 府内中学校（99校）特別支援学校（3校） |
| 3 実施教科及び受検者数 | 国語 10,080人 数学 10,092人 英語 10,100人 |
| 4 問題内容及び問題数 | (1) 基礎・基本に関する問題・・・20問
(2) 活用に関する問題・・・5問
(3) 質問紙調査・・・33問 |

平成25年度京都府学力診断テストを実施しました。
学力調査と質問紙調査の結果について概要をお知らせします。

■ **全体的な学力は、ほぼ定着している。**

- | | |
|----|-------------------------------------------------------|
| 国語 | ◆ 「言語事項」の領域は、ほぼ定着している。
◆ 「読むこと」の領域に一部課題がある。 |
| 数学 | ◆ 「数と式」の領域は、ほぼ定着している。
◆ 「図形」と「資料の活用」の領域に一部課題がある。 |
| 英語 | ◆ 「聞くこと」と「読むこと」の領域は、ほぼ定着している。
◆ 「書くこと」の領域に一部課題がある。 |



■ **家庭での学習習慣については依然課題がある。**

平日の家庭での学習時間については、2時間以上の生徒の割合は昨年度よりも1.5ポイント増加しているものの、30分未満の生徒の割合は0.6ポイント増加し、25.0%であり、依然課題がある。

■ **規範意識については、やや改善傾向が見られる。**

「学校や社会のきまりや規則を守っている」の質問に、「当てはまる」と回答した生徒の割合は40.7%であり、昨年度より0.7ポイント増加している。
「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の質問に、「当てはまる」と回答した生徒は71.4%であった。（平成21年度全国学力・学習状況調査56.1%）

■ **携帯電話の所持率が増加している。**

携帯電話の所持率が73.7%であり、昨年度より増加している。（昨年度66.6%）
※所持率は全体から「携帯電話を持っていない」と回答した割合を引いたもの

改善プラン

「包み込まれているという感覚」を実感できる
教育活動を展開し、質の高い学力をはぐくむ

■ **京都府の児童生徒の学力向上を小中連携の視点で捉え、9年間を見通した指導を行う。**

京都府学力診断テスト(小4・中1・中2)及び全国学力・学習状況調査(小6・中3)の結果から、児童生徒の学力実態や家庭における生活状況等の特徴や課題を把握し、小中連携の視点で学力向上に取り組む。

■ **生徒の学ぶ意欲を引き出し、個に応じた指導の一層の充実と授業改善を進める。**

質問紙調査結果を生徒の学力把握に活用し、少人数教育推進担当教員が中心となり、「京都式少人数教育」を更に推進し、指導方法の工夫改善を組織的に図る。

- ◆ 「指導方法の改善に関する研究協議会」「中学校教育課程京都府研究大会」「京都府学力診断テスト活用講座」を実施

■ **規範意識や豊かな人間性を育むために、「道徳の時間」等の指導の充実を図る。**

■ **すべての中学校で「非行防止教室」を実施する等、生徒が社会のきまりや規則を学習する機会を増やす。**

■ **スマートフォンをはじめとする携帯電話に潜む危険性や家庭でのルール・使い方等について保護者への啓発を進める。**

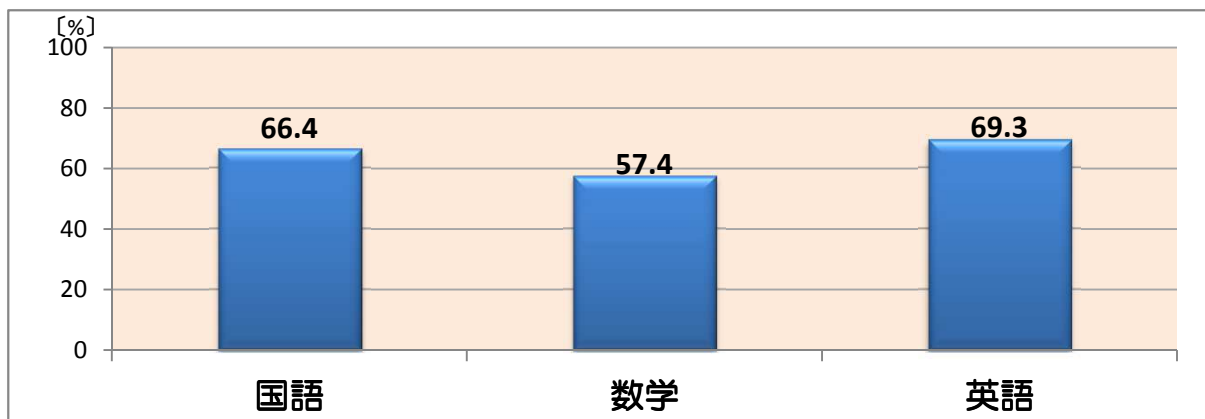
- ◆ 「保護者のみなさまへ 家庭で話そう！ ～ケータイ利用のルールとマナーについて～」リーフレットを全家庭に配付

担当課	学校教育課
課長	沖田 悟傳
内線	5 8 3 0
電話	075-414-5831

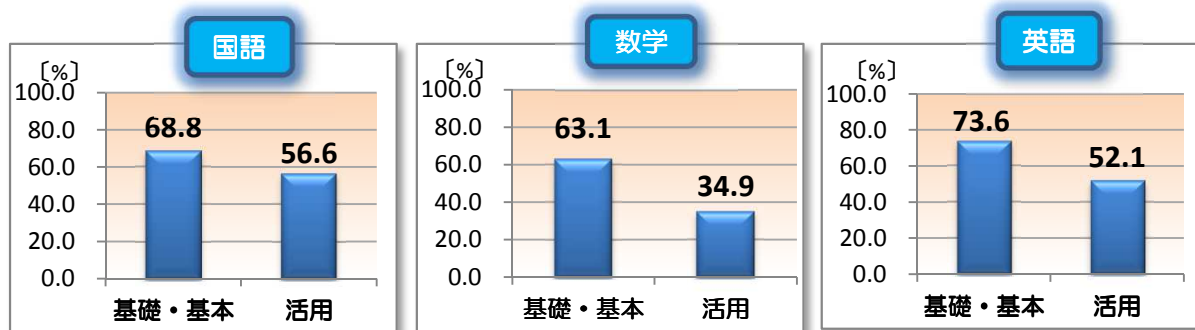
5 結果の状況（京都府全体）

(1) 教科別

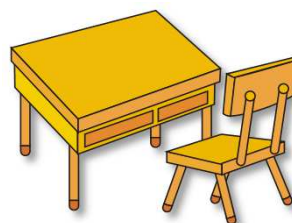
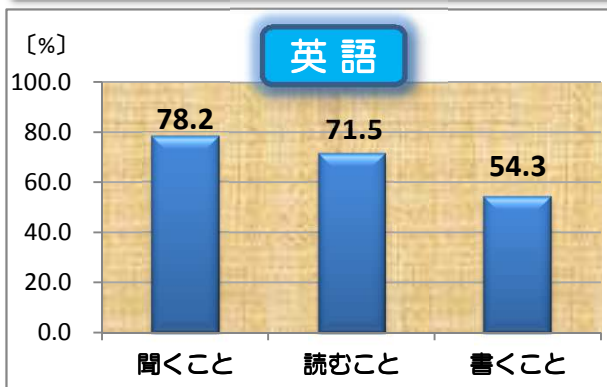
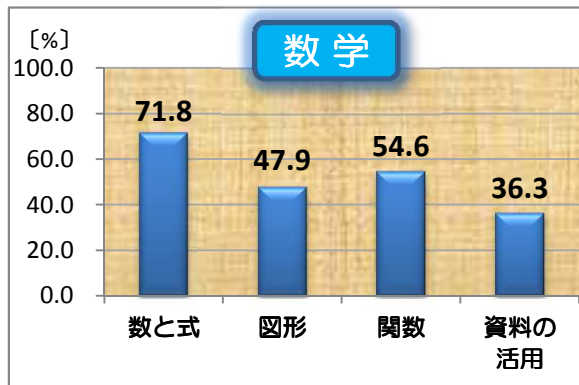
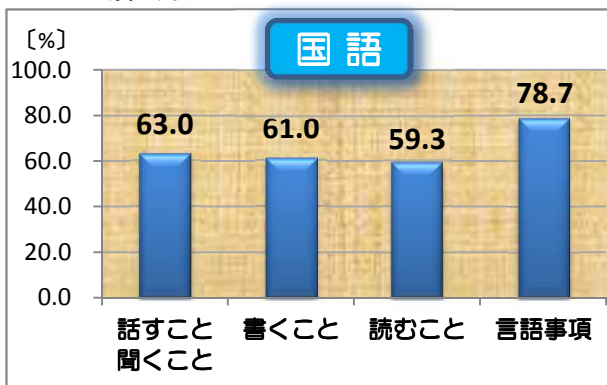
※数値はすべて正答率（100%）



(2) 問題類型別（基礎・基本に関する問題 活用に関する問題）



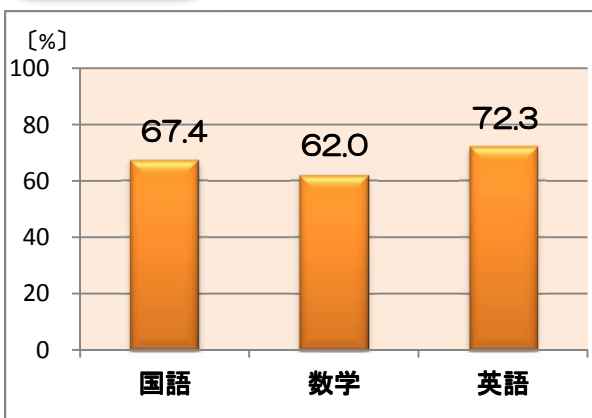
(3) 領域別



(4) 教育局別平均正答率

**乙訓
(8校)**

国語 (1,260人 12.5%)
 数学 (1,262人 12.5%)
 英語 (1,262人 12.5%)



**山城
(35校)**

国語 (4,682人 46.4%)
 数学 (4,691人 46.5%)
 英語 (4,699人 46.5%)



**南丹
(15校)**

国語 (1,226人 12.2%)
 数学 (1,226人 12.1%)
 英語 (1,226人 12.1%)



**中丹
(22校)**

国語 (1,774人 17.6%)
 数学 (1,778人 17.6%)
 英語 (1,777人 17.6%)



**丹後
(17校)**

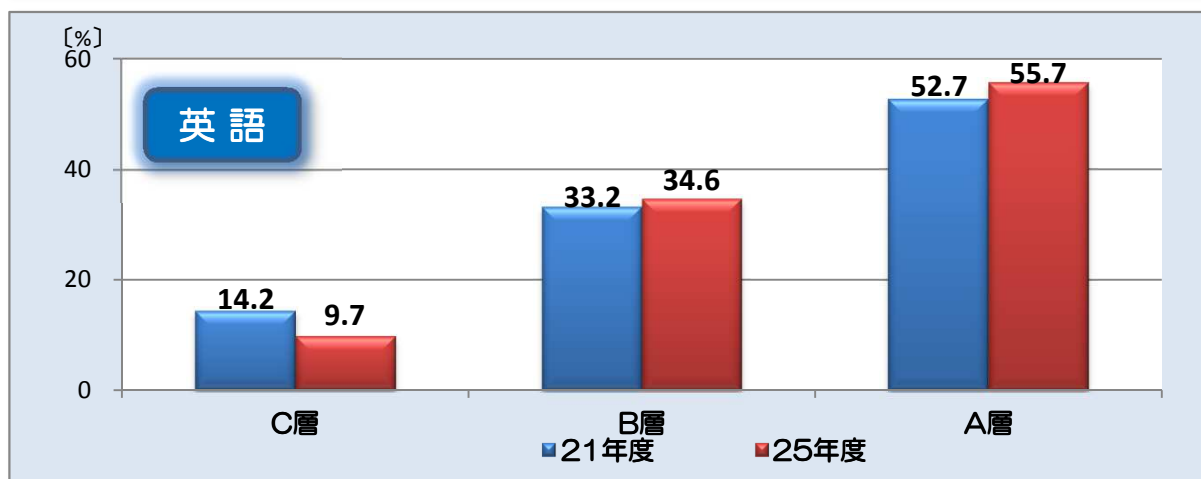
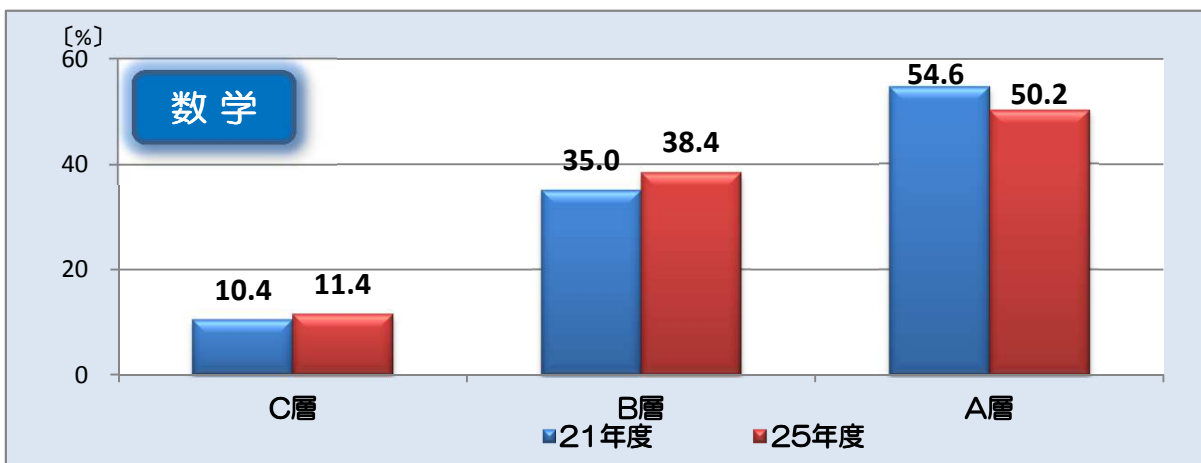
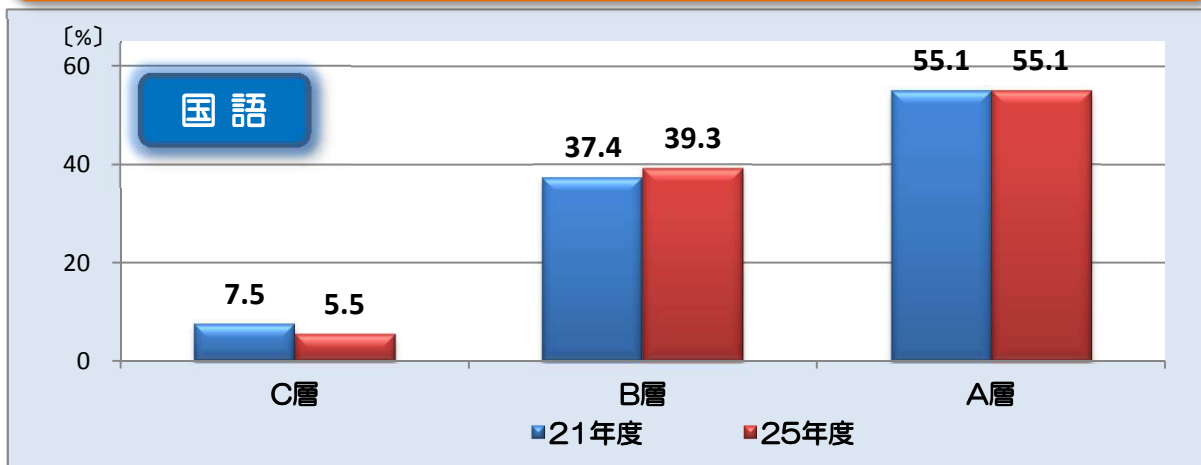
国語 (1,011人 10.0%)
 数学 (1,008人 10.0%)
 英語 (1,009人 10.0%)



()は、
 (受検者数 府全体の受検者数に占める割合)を表す。

(5) 学力分布の経年比較

中1 振り返り集中学習「ふりスタ」の対象ではなかった平成21年度の中学2年生と、「ふりスタ」の対象となっている平成25年度の中学2年生の結果を比較すると、国語、英語については課題がある学力層が減少している。



【分析方法】

各教科・各年度の平均正答数以上の生徒をA層とし、平均正答数未満の生徒をB層（上位）、C層（下位）に二分割して分析

（例）平均正答数が16問なら、16問以上がA層、8問以上16問未満がB層、8問未満がC層